

職場編・研究成果報告 — 自然談話の分析から見えたこと

現日研・職場談話コーパス公開記念シンポジウム

本田 明子

2018年9月3日

女性のことば 職場編 研究内容

女性専用の文末形式の今(尾崎喜光)

疑問表現の様相(中島悦子)

職場の敬語のいま(遠藤織枝)

自称・対称は中性化するか?(小林美恵子)

「のっけちゃうからね」から「申しておりますので」まで(谷部弘子)

話しことばの「だから」「それで」(三井昭子)

笑いの意図と談話展開機能(早川治子)

発話の「重なり」と談話進行(本田明子)

女性の働き方とことばの多様性(高崎みどり)

「ね」のコミュニケーション機能とディスコース・ポライトネス(宇佐美まゆみ)

男性のことば 職場編 研究内容

男性のことばの文末(遠藤織枝)

職場の男性の疑問表現(中島悦子)

職場の男性の敬語(遠藤織枝)

「です／ます」表現の使われ方(笹寿美子)

新しい丁寧語「(っ)す」(尾崎喜光)

職場で使われる「呼称」(小林美恵子)

「おれ」と「ぼく」(桜井隆)

「から」と「ので」の使用にみる職場の男性の言語行動(谷部弘子)

自然言語データの相互的視点による「笑い」の分析(早川治子)

発話の「重なり」にみられる日本語談話進行の特徴(本田明子)

職場における相互理解の談話構造(杉本明子)

男性の働き方とことばの多様性(高崎みどり)

職場編

自然談話コーパスがもたらした研究の可能性

当初の目的—現実の女性の話しことばの実態の解明



さまざまな職業・年代

3つの場面(朝・会議・休憩)

自然談話



社会言語学的アプローチ 属性論的な研究

語彙研究

文法研究

談話研究

言語行動

研究の可能性の広がり

職場編による研究例

尾崎 (1997)

—「文末形式」に注目した属性論的研究

共同研究の目的:

現代の職場における日本語の性差、特に**女性の話し言葉の実態**について、**自然談話資料をもとに実証的に明らかに**すること



職場で働く女性は、女性専用とされる文末形式(「～わよ」「～よ」「～だわよ」など)を現在どの程度用いているのか

尾崎(1997) 研究結果1

終助詞「わ」(女性専用形式)の使用

「わ」を使うことが可能な文法的環境において

使用 22.8%

不使用 77.1%

必ず使う「専用」使用者 0

一貫して使わない「不使用」または「混用」 ほぼ同数

ケース数・使用者数ともに使用率は低い  「専用性」が低下

尾崎(1997)

研究結果2

助動詞「だ」の不使用

傾向的な性差

性差は大きい

男性の使用率は低い

女性は普通に使用する

しかし 30代以下の世代では衰退にむかっている

尾崎(1997) 研究結果3

助動詞「だ」+終助詞「わ」(=「だわ」)の使用

男女ともにほとんど使用しない



「女性専用形式」というよりも「死語」「旧女性専用形式」

尾崎(1997)

一 自然談話の分析から見たこと

女性専用の文末形式の使用状況

「『だ』の不使用 > 「わ」 > 「だわ」

→ 女性であることを積極的にマークする形式の使用が先行して衰退

自然談話の分析によって、話しことばの「いま」が明らかに

尾崎(1997)における課題

限定付きで得られた知見

①機械分析のために分析対象範囲を限定



中納言版

②女性専用形式とされる文末表現のみ



男性のことば 職場編

③職場のみ



日常生活のことば

職場編データを利用した研究例

野田(2007)

時間の経過から生まれる破格文

「日常生活で実際に発話される文には、整っていないものがたくさんある」

(野田2007:1)

15A: えー、無制限のー、こちらの無制限の設定してあるんですがー{はい、はい(15B)}、もしー、あの一、前と同じような形ですわー、えー、対物の部分、1000万とゆう形、で、ここは3000万の部分はですわー、やはり##
#特約ってゆうものが設けられましたのでー、こちらのほうに変えたほう
がー、えー、より使い勝手はいいかと思います。(「男性のことば・職場編」7463)

「このような文が生まれるのは、文を発話しはじめてから発話しおわるまでに時間がかかるからである」 ⇒ 時間の経過から生まれる破格文

自然談話の分析から見たこと

職場編データを利用した研究例 野田(2007)

この論文でとりあげた「時間の経過から生まれる破格文」は、これまでほとんど問題にされてこなかった。それは、文の構造を分析するときは、**理想的な文を静的にみていた**からである。

「理想的な文をみていた」というのは、発話のなかでたまたま起きる言い誤りを含む文や、よく考えるとおかしいと多くの人を感じる文は分析の対象にしていなかったということである。つまり、**現実に発話された生の文ではなく、母語話者の頭の中にある抽象的な文を分析していた**ということである。 (野田2007:28)

自然談話データによる生の発話の「時間の経過」を考慮した分析

職場編による研究例 本田(1997・2002) —自然談話における「重なり」

コーパスによって「**談話**」を分析する

自然談話にみられる重なりの分類

→ 重なりのあらわれ方の実態を知る

重なりとは

ある一時点において複数の話者が音声を発していること

職場編による重なりの扱い

発話の途中で次の話者の発話が始まったばあい、次の話者の発話が始まった時点「★」で示す。また、前の話者の発話に重なった部分は、始まりを「→」、終わりを「←」で示す(『職場編』p.28、5)。

例

- ・スペインん時も、ずいぶん持っていて★いただきましたものね。
[01A・朝]
- ・→いや、スペインは←もうねえ、だめだった。[01D・朝]
(女性のことば 職場編)

自然談話にみられる重なり

① ターン交替時の予測の誤り(「早すぎ」)

話し手の発話の終わるタイミングをまちがえて、あるいは発話の終了を待たずに話しはじめるもの

② 同時発話(「同時発話」)

複数の話者が同時に話し始めるもの

③ 相手の言おうとすることの先取り(「先取り」)

話し手の言おうとすることを予測して、相手の発話に同調して言うもの。共話を形成し談話進行を補助する。

④ 相手発話への割り込み(「割り込み」)

話し手の発話の途中で、発話の終了を待たずに会話を始めるもの。

職場編データにみられる重なるの種類

	Turn交替 誤り	先取り	割り込み	同時発話	不明*	計
『男・職』	236	68	144	101	45	594
(%)	39.7	11.4	24.3	17.0	7.6	100
『女・職』	678	62	119	187	6	1052
(%)	64.4	5.9	11.3	17.8	0.6	100

* 録音状態が悪く、発話内容が不明で判断できないもの

重なるの種類・出現数に差がみられる要因

- ・発話者の人数

1対1の対話

<

3人以上の会話

- ・発話者の親疎

- ・場面

会議

意見の食い違う激しいやり取り

「割り込み」が多い

休憩

利害の対立のない雑談

「turn交替誤り」が多い

性差(男性から女性への割り込みが多いなど)ははっきりとはみられない

好井(1991)

条件を統制した談話データにみられる重なり

「実際の会話状況で男性／女性が行使するパターン化された話し方に現れる歪みに注目」

分析対象データ

- ・大学学部学生男女各16名
- ・2名1組 各30分 約16時間分の会話録音
男性×男性10組 女性×女性10組 男性×女性12組
- ・テーマ「大学でのサークル活動」「女性問題」
- ・話し合いは各ペアの自由
- ・テープレコーダーは協力者自身がセット

好井(1991) 割りこみの数と生起率

- ・同性間会話 両者が同じくらい「割りこんで」いる
- ・異性間会話 男性の女性に対する「割りこみ」数のほうが圧倒的に多い
→ 生起率平均も同様

割りこみのタイプ別(タイプ1・タイプ2) *タイプ2がより真正の割りこみ

全体としてタイプ2の生起が少ない

同性間会話 ほぼ対等に生起

異性間会話 男性の女性に対する「割りこみ」が多い

→男性は女性の2倍以上のタイプ2の割りこみ

男性が行使する
微細な権力装置

自然談話の分析から見えたこと

条件を統制した談話

分析対象(たとえば属性)の影響が明確に浮かび上がる

自然談話

さまざまな要因があり、1つの分析対象に関する明確な差が見られない
⇒分析対象がもっとも強く働く要因であるとは限らないことがわかる

双方のデータが補完し合って話しことばの実態を描き出す

引用文献

尾崎喜光(1997)「女性専用文末形式のいま」現代日本語研究会編『女性のことば(職場編)』
ひつじ書房

現代日本語研究会編(2011)『合本 女性のことば・男性のことば(職場編)』ひつじ書房

本田明子(1997)「発話の『重なり』と談話進行」現代日本語研究会編『女性のことば(職場編)』
ひつじ書房

本田明子(2007)「発話の『重なり』にみられる日本語談話進行の特徴」現代日本語研究会編
『男性のことば(職場編)』ひつじ書房

野田尚史(2007)「時間の経過から生まれる破格文」串田秀也・定延利之・伝康晴編『時間の中の
文と発話』ひつじ書房

好井裕明(1991)「男が女を遮るときー日常生活の権力装置」山田富秋・好井裕明編『排除と差
別のエスノメソドロジー』新曜社